

# 特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議（第1回）

## 議事要旨①

### （1）教職課程コアカリキュラムについて

- 特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム策定の際は、ミニマムエッセンシャルで、身に付けるべき力をどのように精選するかが重要な点ではないか。また、大学の特徴や裁量とのバランスも考慮するべきではないか。
- 教育課程の観点からは「自立活動」が重要。特別支援学校教諭のみならず、小学校等の教員にどの程度の内容を入れるか、どこまで担保できるか、学習指導要領と自立活動の指導のリンクなどが大きな課題。
- ASDは、特別支援学校教諭免許状の5領域には含まれていないが、大変重要な概念。発達障害の中でもどこに重きを置いて教えていくのかという論点も重要。
- 複数の障害に対応している学校が多い現状を踏まえ、全ての障害種について一定程度理解しているような教員免許が必要ではないか。

### （2）教員養成、採用、研修について

#### （教員養成）

- 特別支援学校教諭は、センター的機能という観点からも、カウンセリングマインドや、小学校や中学校の現場を知るということも重要。
- 特別支援学校教諭免許状取得大学の量的な整備はなされてきたが、各大学で取組内容に差がある。国立の養成大学も含め、如何に偏りを改善するかが課題。
- 小学校等の免許を取る際に、特別支援教育の理念や各障害種の基礎については理解してもらうことが必要ではないか。

#### （採用関係）

- 必ずしも学生が特別支援教育領域の分野で働くとは限らないが、軸足を置いた領域で活躍できる採用の在り方も検討が必要ではないか。

# 特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議（第1回）

## 議事要旨②

### （研修関係）

- 養成課程のみで現場で通用する状況ではないため、大学として、研修にもコミットしていく必要があるのではないか。
- 全国的に若い先生が多く、若手への研修が重要。各学校でも悩みの点。
- 免許状取得率の向上と並行し、免許法認定講習の活用も重要。

### （3）今後の議論で留意すべき点について

- 現状や現場の声を踏まえた整理・議論をしていくことが重要。大学での学びが実際の教育現場と乖離しないような養成課程にすべき。
- 「資質能力の構造化の試案」の7項目を特別支援学校教諭免許状の中でどのように位置づけていくかという整理が必要ではないか。
- 学部段階に加え、修士（大学院）レベルの養成課程についても視野に入れて議論すべきではないか。
- 全ての教師の特別支援教育の専門性向上に加え、特別支援教育コーディネーター等、一種のリーダー養成についても議論すべきではないか。
- 管理職の在り方が重要。経験だけでなく、機関連携や制度の理解等も重要。

### （4）その他

- 教員の確保が非常に難しい現状にある。（非常勤講師に依頼せざるを得ない）